

どうとくのひろば

こことのひろば ---2

[インタビュー]

江戸東京野菜を守り、未来につなぐために

農家 渡戸 秀行

見てわかる！道徳 ---4

「礼儀」

「正直、誠実」(小学校)

越智 貢、上村 崇、奥田 秀巳

実践事例 小学校4年 ---6

立ち止まってじっくり考える道徳科授業

宮崎 貴耶、島 恒生

実践事例 中学校1年 ---10

自分も相手も大切にする態度を育てる

小さな対話

丸山 晶子、渡邊 真魚

おさておきたい！授業力アップのための

教科書・指導書活用術 中学校編 ---14

教科書QRコンテンツを有効活用する！

一動画を活用して興味・関心を高める工夫を—

山田 将之

地球の仲間からのメッセージ ---15

自然の法則

—なぜ、北のクマは大きいのか？—

長瀬 健二郎

No.
42



表紙イラスト Kasumi Taoka

日文の Web サイト



日文



《インタビュー》

江戸東京野菜を守り、未来につなぐために

東京には江戸の息吹を今に伝える野菜があります。それが先人から大切に受け継がれた江戸東京野菜^{*}です。このかけがえのない食文化を未来へ継承しようと取り組む農家、渡戸秀行さんにお話を伺いました。

農家を継ごうと思ったのはなぜですか。また、畑では、どのような野菜を作っていますか。

我が家は、江戸時代中期から続く農家です。代々受け継いできた1haの畑を守るため、会社員を辞めて、26歳で農家を継ぎました。今、このように暮らしていくのは、ご先祖様から受け継いだ畑があるからで、次世代にも引き継いでいきたいと思いました。

作っているのは、人参や大根、ネギなど一般に流通している野菜のほかに練馬ダイコン、ごせき晩生小松菜、内藤トウガラシなど10品目ほどの江戸東京野菜です。

40年ほど前まではキャベツを市場に出荷していました。しかし、大生産地のキャベツに太刀打ちできず、しだいに採算がとれなくなりました。そういう変化によって私だけでなく東京の農家は、少量多品目の農作物を作り、直売することが多くなりました。

現在は、作った野菜の9割以上を直売所で販売しています。ただ、江戸東京野菜はまだ知名度が低いので、直売所ではほとんど販売せず、契約栽培です。



直売所「ファーム渡戸」(東京都練馬区)

こころのひろば// ウェルビーイングな社会を創るために

わた ど ひで ゆき 渡戸 秀行 農家

東京都練馬区で約30品目の野菜を作る農家。練馬ダイコンやごせき晩生小松菜、内藤トウガラシなど江戸東京野菜の保存、普及活動も行い、次世代につなぐ取り組みにも力を入れている。新鮮で安心な野菜を自身の直売所「ファーム渡戸」などで販売し、地域の人々に提供している。

写真 福田 俊介



江戸東京野菜の収穫体験イベントの様子(東京都練馬区)

戸東京野菜を集めて宅配便で発送する取り組みをしていました。

野菜を集荷するだけでも大変なのに、それを箱詰めして発送する作業は本当に手間がかかるんです。

私も協会に江戸東京野菜を納品していたのですが、そこでふと思ったんです。「だったら、うちの畑で江戸東京野菜を作って、消費者に直接、収穫してもらえばいいんじゃないかな。」って。

試しに江戸東京野菜の収穫体験のイベントをやってみたところ、非常に好評でした。今では10年ほど続く人気のイベントになっています。

農業で感じるやりがいと、続けるうえで大切にしていることは何でしょうか。

農業というのは、自分が努力した分だけ結果が返ってきます。だからこそ、やりがいは会社員時代よりもありますよ。努力していい野菜を作れば、それは高く売れる事にもつながります。もちろん失敗することもあります。自然相手ですから。

やはり、健康が大切です。2026年で還暦になりますが、あちこち痛くなりますし、農作業には体力が必要です。



ごせき晩生小松菜 小松菜は、八代將軍・徳川吉宗が鷹狩りの際、小松川村で食べた青菜を気に入り命名したと伝えられています。ごせき晩生小松菜は、甘みがあり、柔らかい食味が特徴です。



練馬ダイコン(上、右) 東京都練馬区で江戸時代から作られてきた大根で、長さ70cm~1mにもなります。

要です。特に夏の暑い時期は本当に大変です。だから、上手に休みながら農作業することを心がけています。倒れるまで農作業をしても誰も褒めてくれませんから。

農業には定年も退職金もありません。健康であれば、ずっと続けられる仕事です。だからこそ、適度に楽しみながら、体を壊さないように農業をしたいと思っています。

これから力を入れていきたいことはありますか。

2025年に東京都の指導農業士に認定されました。

新しく農業を始めたい人などから声がかければ、講習や実技で農業を伝える役割を担うことになります。江戸東京野菜の栽培についても指導します。

これまで私が培ってきた技術やノウハウを少しづつ還元していくことが大切だと思っています。今後はそういう活動にも力を入れていきたいです。



内藤トウガラシ(上、右上) 江戸時代、新宿では内藤トウガラシが作られており、江戸の食に欠かせない唐辛子の一大産地となっていました。

日本文教出版『小学どうとく 生きる力 3』では、江戸東京野菜を使った料理を提供する店や江戸東京野菜について取り上げた教材「これ、全部東京産」を掲載しています。



見てわかる！ 道徳

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。それらは密接に関わり合い、また競合する場合もあります。ここでは、内容項目間の関係を分かりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

監修：広島大学名誉教授 越智 貢 共著：福山平成大学教授 上村 崇
北海道教育大学准教授 奥田 秀巳

「礼儀」と「正直、誠実」

今回の「礼儀」と「正直、誠実」という二つのテーマには、それらの内容項目に含まれる「明るい」と「明るい心」という用語の意味が同じだろうかという質問が付されていました。たしかに、それらの用語には無視できない問題が隠れています。

以下、この質問への回答を試みたいと思います。

「明るい心」

実際の文章を見ておくことにしましょう。

〔礼儀〕「気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること」（小学1・2年）
〔正直、誠実〕「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」（同3・4年）、「誠実に、明るい心で生活すること」（同5・6年）。

「礼儀」の「明るく」は、ひとまず、明るい声や笑顔を指していると考えてよいでしょう。とすれば、「明るく接する」は「朗らかに」「元気な顔で」接するとほぼ同義です。しかし、「正直、誠実」の「明るい

心」がそれと同じ意味だとすれば、どこか腑に落ちない思いがしてきます。そもそも元気な心や朗らかな心とは何か、といふいわゆる身心問題につながる問い合わせが生じるばかりではありません。たとえ、そうした哲学的な問い合わせは置いておくとしても、次のような疑問が残るからです。正直で誠実な生活を送ることは大切だが、朗らかにそうすることを勧めるのは過剰な要求ではないかという疑問です。そう考えれば、「明るい心」は不要な用語だとも思えてきます。

しかし、そうではありません。結論から言えば、「明るい心」の明は、明朗快活の明ではなく、むしろ公明正大の明だと言うべきでしょう。公明な人は、私心や下心のない人であって、朗らかな、元気のよい人ではありません。「明るい心」の対義語は暗い心ではなく、いわば「汚れた心」です。

学習指導要領と「明るい心」

このことは学習指導要領の表現の歴史を検討すれば理解しやすいかもしれません。学習指導要領に「明るい心」が初めて登場するのは1989年です。それ以降、現在に至るまで「明るい心」が使われていますが、そ

今回のテーマ

「礼儀」

「正直、誠実」（小学校）

「見てわかる！ 道徳」では取り上げる内容項目を募集中です！

取り上げてほしい内容項目があれば、右の二次元コードからご応募ください。



れ以前はどうだったのか。「明るい心」に近い表現として用いられていたのは「真心」でした。例えば、1968年の学習指導要領では「常に真心をもって正直に行動する」、1958年では「正直でかけひななく、真心を持った一貫性のある行動をする」と記されています。真心は「裏表のない心」「偽りのない心」でしょう。こうした文脈の延長線上で「明るい心」が使われていることに注意しなければなりません。

「明き心」と「正直、誠実」

「明るい心」が真心と近い用語であるなら、いわゆる「清き明（あか）き心（清明心）」の「明き心」とも重なる用語であることに思い至る人もいるでしょう。清明心は『古事記』にまでさかのばる、古来より重視されてきた徳目であり、そこで語られる「清き心」や「明き心」は裏表のない澄み切った気持ちを言い表していました（注）。「明るい心」はこの「明き心」を見据えた現代語と考えてよいでしょう。つまり、私心なく汚れのない心です。

実は、「正直」や「誠実」もこの清明心を背景として用いられてきた歴史があります。古代の清明心の考

え方が中世神道の「正直」、そして近世儒学の「誠（実）」へつながったと考えている倫理思想の専門家は少なくありません。「正直」や「誠実」そして「明き心」はいわば同族の関係にある用語なのです。

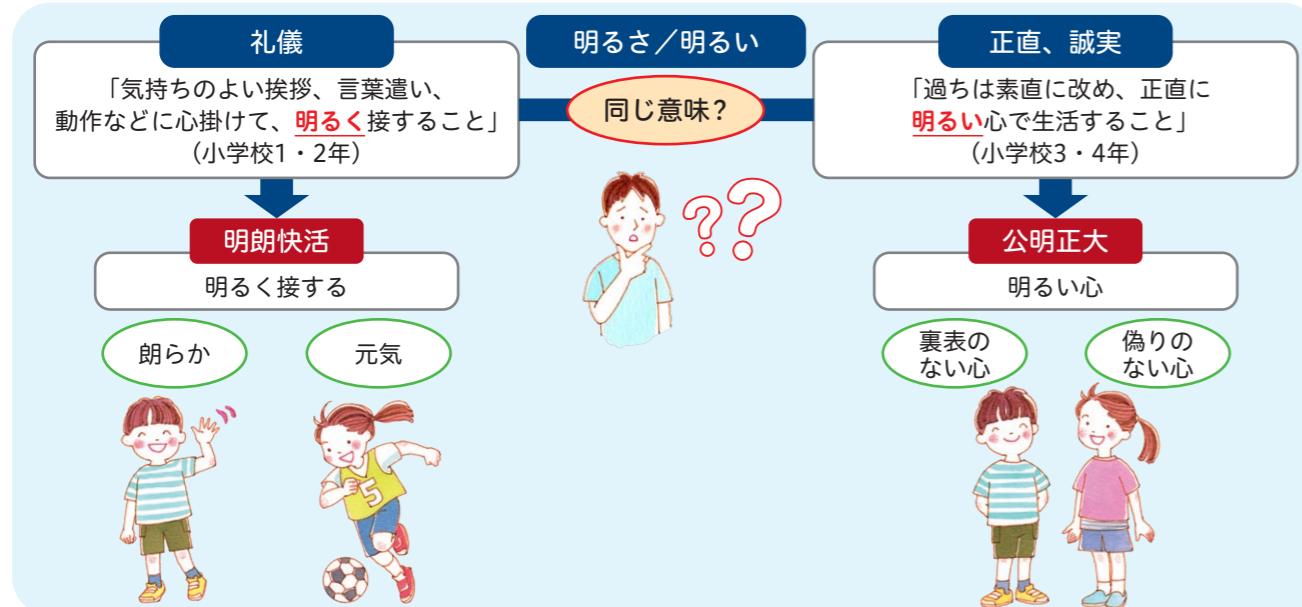
「明るい心」の行方

道徳に関わる用語では、人格や権利など、明治期を中心として西洋の言葉を和訳したものが多くを占めますが、「正直」や「誠実」は違います。それらはともに平安時代の終わり頃には漢詩に登場しています。道徳はこのように出自の異なるさまざまな言葉が同居して成り立っています。そして、時代の変化とともに、徐々に形を変えていくのです。

その中で、「明き心」と「明るい心」とのつながりが希薄になりつつあることは、冒頭で取り上げた質問自体が物語っています。いつしか「明るい心」も「正直、誠実」の内容項目から姿を消し、別の用語に置き換わっていくかもしれません。

（注）「正直」や「誠実」と「真心」とが関係づけられた時期には、「崇高」と「清らかな心」が結び付けられていました。

道徳で使われる用語の出自



同族の関係にある道徳の用語

中世神道
「正直」の重視
近世儒学
「誠（実）」の重視
古代
清明心
「清き心」「明（あか）き心」
=裏表のない澄み切った気持ち
（『古事記』）

現代

出自の異なる道徳の用語
正直、誠実
明治以降
人格、権利…
(西洋の言葉の和訳)

今、使っている道徳の用語も変わっていくのか…。
用語によって出自が異なるのか…。

小学校
4年

立ち止まってじっくり考える 道徳科授業

大阪府枚方市立五常小学校 宮崎 貴耶



教材名 「花さき山」(『新編 新しいどうとく4』東京書籍)

内容項目 D「感動、畏敬の念」

主題名 美しいってなんだろう?

ねらい 花さき山に描かれる「美しさ」について考えることを通して、自他の心の美しさを感じたり、見つけたりする心が自分たちにもあることに気づき、今後もその心を大切にしていきたいという道徳的心情を養う。

教材あらすじ 主公のあやは、山で「やまんば」と呼ばれる老婆に会う。そこで、花さき山一面に咲く花の秘密について知る。それは、村の人々の心が源となり、きれいな花を咲かせているというものであった。

1 はじめに

道徳科の授業を構想するうえで、いちばん大切にしていることは、子どもたちが立ち止まってじっくりと考える授業にすることである。そして、この「じっくりと考える」内容は、子どもの心の中に「すでに存在しているもの」であり、立ち止まって考えることで、それが気づきへと昇華されるものである。そのため、本実践においても「じっくり考える」内容にこだわり、ねらいを設定した。そして、子どもたちが自らの考えに迫ったり、友達と自然に語り合ったりしながら、立ち止まって考える授業の構想を行った。

2 本教材とねらいについて

本教材は、花の美しさなどの「具体的な美しいもの」と、人の心のような「抽象的な美しいもの」が関連づけて描かれる点が特徴である。4年生は、「美しい」と聞くと、「具体的な美しいもの」を想像しやすい発達段階にある。しかし、実際の生活では、自他の心の美しさなど「抽象的な美しいもの」にも感動の心を向けることができている。

そこで、本授業は、ねらいを「自他の心の美しさを感じたり、見つけたりする心が自分たちにもあることに気づく」と設定し、後述する「立ち止まり」を創る

工夫を取り入れ、構想した。

展開では、先述した教材の特徴を生かし、物語内に描かれる美しさを考えることから「人の心の美しさ」へと自然に迫っていくことを目指した。そして、みんなで「人の心の美しさ」について考えた後に、それが「自分の中にあること」「自分も、他者の心の美しさに気づく心をもっていること」を自覚できるよう、具体的な経験を想起する場面も大切にした。

3 「立ち止まり」を創るための手立て

(1) beforeとafterを比較する板書

導入時の子どもたちが考える「美しいもの」を黒板の左上部分に書き(before)、授業の後半での考えをその下に書き足した(after)。授業の前後の考え方を比較できる板書は、自分たちの考え方の深まりを俯瞰・実感するための手立てとなり、立ち止まって自分自身の考え方を見つめることにつながった。

(2) 自己の経験を立ち止まって見つめるための問い

本授業でねらいに設定した「心の美しさ」は、言葉では分かっても説明が難しい。そのため、教師からの「心が美しいってことが、分かりそうで分からない。」「もう少し詳しく教えてくれない?」「今の意見が分かる人?追加があればどうぞ。」という声かけや質問を大切にした。これが、「仲直りのときの……」「校長先生の……」というような、子どもたちが経験してきた「自他の心の美しさ」を語り始めることへつながった。そして、子どもたちの間に「自分たちも、心の美しさを感じてきた」という共通認識を生み出した。

言葉だけでは、つかみきれない道徳的価値の理解を自分たちの経験に重ね、立ち止まって見つめ直すことで、授業の学びとこれまでの経験とをつなげることができた。

(3) 子ども同士の対話で立ち止まる

教材に抽象的な美しさが描かれているため、子ども同士の相互指名でも、ねらいに関する理解が深まっていくことが期待できた。そこで、対話の内容が「心の美しさ」に焦点化されてからは、毛糸のボールを使用

し、子ども同士の相互指名で対話が進む時間を設定した。そのおかげで、互いに問い合わせたり、意見を補い合ったりして、自分たちで立ち止まりながら考えを深めていく様子が見られた。さらに、子ども同士の対話は、子どもの中に「自分たちで考えた! 深めた!」という実感を生み出すことにもつながっていた。



(4) 自由度の高い道徳ノートで立ち止まる

大人でもそうであるように、道徳科で扱う内容は、自分の考えを言葉で表現することが容易ではない。そのため、色鉛筆や矢印の記入など多様な方法で考えを書けるような自由度の高い道徳ノートを活用している。これは、一人ひとりがじっくりと立ち止まって、自分の考え方を見つめる時間へつながり、子どもの対話を支える手立てとなっている。



畿央大学大学院教授
島恒生先生の
ここに
フォーカス!



「花さき山」は、有名な教材です。一方、D「感動、畏敬の念」は、なかなか指導が難しいと言われる内容項目です。実際、「花さき山」の授業は、子どもたちにとって感動するだけで終わってしまうのがちで、この教材を使って何を考えるのかが分かりにくい教材ではないでしょうか。

これに対して、宮崎先生は、子どもたちが具体から抽象へと思考が発達する段階であることを踏まえながら、美しい心が自分たちの中にあることを自覚できるようにすることを「ねらい」として明確に位置づけていました。さらに、それを子どもたちの中にすでに「ある」ものとし、対話によって自覚へと至らしめる姿勢で子どもたちと共に考え合う授業を展開しました。

子どもたちの実態に応じた、しかもプラス志向の道徳授業です。このような発想が大切ですね。

4 指導の実際について

本授業での子どもの振り返りの一部を紹介する。「美しいものは目に見えるものばかりだと思っていたけど、見えない美しさもあると感じた。そして、そうした美しい心は自分やみんなの中にもあると思った。」「授業から、美しいものには心もあるのかもしれないと思った。これからは、心の美しさも大切にしたい。」「美しいものを最初は何か分からなかったけど、途中からどんどん分かってきて、最後に美しいと思ったのは、人の心だ。クラス全員の心(は美しいと思った)。」「今まで、ダイヤモンドや宝石だけを美しいと思ってきたけど、人の心だって美しいものだと思った。」「私は、見えない美しさについては、見えると思った。なぜなら、(転校生の)お別れ会でみんな泣いたときに美しさを感じたから。」

本授業のねらいは「自他の心の美しさを感じたり、見つけたりする心が自分たちにもあることに気づく」と設定した。子どもの振り返りや板書に残る発言から、「自他の心の美しさ」を再度見つめ直すような授業を実践することができたと考える。

その要因には、ねらいを明確にもち、立ち止まるポイントを設定したこと、板書の工夫、子どもの相互指名で進む対話の時間の設定、自由度の高い道徳ノートの活用があったと考える。また、授業の中での発問や質問は、ねらいを大切にしながら問い合わせをしたため、授業での考え方に関連づいた子どもたちの具体的な経験までも引き出すことにつながった。

「教師がねらいを明確にもち、子どもたちと立ち止まって考えるポイントを設定し、みんなで考え合う手立てを打つことが、子どもたちの深い学びを生む。」そのことを胸に今後も、子どもたちが思わず立ち止まりたくなり、深く考えていくような授業実践を重ねていけるように研さんを続けていきたいと改めて強く感じている。

実践事例

導入

展開

終末

学習活動

◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される児童の反応

1 本時のテーマを知る。

○今日は、みんなで「私たちが感じる美しいものってどんなものだろう。」ということについて考えていきまます。

2 「美しい」と聞いて思いつくものを発表する。

○『美しい』ものと聞いて、どんなものを思い浮かべますか。

☆ダイヤモンド ☆きれいなお花
☆虹 ☆星空 ☆友情

3 考える視点をもち、範読を聞く。

○今から、先生が読みます。聞きながら、物語の中にあら美しいものを考えましょう。

4 範読を通して、物語に描かれている美しいものについての考えを交流する。

○物語を聞いてどこが美しいと感じましたか。また、どうしてそれらを美しいと感じましたか。

☆花さき山の花が美しい。なぜなら、優しさが花として咲くことがすてきだから。

☆弟に譲る優しさです。なぜなら、自分は我慢して周りの誰かのために優しくすることは大切なことだから。

5 「抽象的な美しいもの」について、相互指名をしながら考え方を共有する。

○心が美しいとは、どういうことだろう。

☆相手を思う心。

☆美しい心は、感じるもの。

6 「抽象的な美しいもの」について、具体的な例を通して考える。

○みんなの言っている「美しい心」って分かりそうで分からないのだけど、もう少し説明できる人はいますか。

☆例えば、友達とのお別れ会のときに……
☆自分がこけてしまったときに……

7 今日のテーマに戻り、考え方を整理する。

○改めて、美しいものについてどんなことを考えましたか。

☆人の心は、目には見えないけど美しい。
☆身近にも美しい心があるのだな。
☆相手を思う心などは美しいもの。

8 授業を通して考えたことをもとに学びを振り返る。

○今日の授業で考えたことを、振り返りましょう。

指導上の留意点

・テーマを示すことで、授業の方向性を明確にする。このことにより、子どもたちで対話をつなぐ際にもこのテーマを意識できるようにする。

・子どもたちの既存の価値観について表出する場面を創ることで、終末との比較につなげる。

・範読を聞く視点を示し、範読後の展開への流れをより円滑にする。

・美しいものを出し合うだけにとどめるのではなく、その根拠について話し合うことで、自らが何に対しても「美しい」と感じてきたかという視点で自己を見つめていけるように工夫する。

毛糸のボールの活用は、哲学対話の実践におけるコミュニティボールと呼ばれる道具に由来しています。

・毛糸のボールを活用したり、対話のルールや挙手のルールを伝えたりすることで、対話の場の安全性と子どもたちの相互指名での対話を支える基盤を共有する。

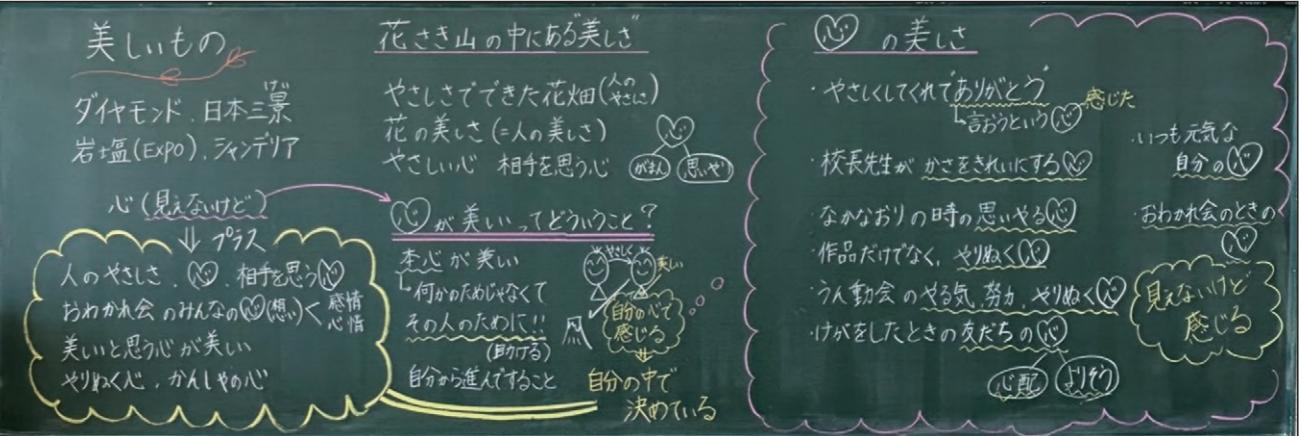
・対話の流れに沿いながら、必要に応じて下記のような発問をする想定をしておく。また、具体的な説明を促すことも想定しておく。

「初めにみんなが言ったものは先生も美しいと思うけど、心っていうのが分からないな。」

「初めの美しいものと今、話題になっている美しいものは何か違うように思うのだけど、どうかな。」

・今日のテーマに戻ることで、授業を通して気づいたことと授業前の考え方を比較し、自分たちの学びを俯瞰して捉えることができるようとする。

・授業を通して考えたことや、授業の中で出てきた経験をもとに、自らの考え方などを振り返ることができるように声かけを行う。



5 展開～終末の授業の様子(一部)

子どもたちが教材の中で見つけた「美しさ」に対して、導入時の意見と比較するために発問を投げかけた。

T (導入では) ダイヤモンドや日本三景……などが出ていたね。これってきれいだよね。よく分かる。でもさ、みんなの話し合いの中で出てきた「心が美しい」とか、「見えない美しいもの」って言葉はどういうことなの?これが分からいいな。

(以降、子どもの相互指名で深めていった。)

C 心が美しいっていうのは、優しくしてもらった人が、「この人は美しい心」って思うってことだと思う。心の中で、本当に相手を助けたいと思う本心のこと。

C ジャア、もし、心の中では、お小遣いのためとか相手の悪口とかを考えていたらそれはどうなるの?

C 美しい心は、お金のためとかじゃなくて、困っている人がいたら、そのために助けようとしたり、助けたりすることだと思うから、それは違うと思う。

C 私は、自分から進んで何かをすることだと思う。何かをもらうためってわけじゃない。

C 僕は、富士山とかを見たときとかの、「きれいやな。」「美しいな。」って気持ちは自分の中で生まれる心だと思う。だから、人の優しさとかも自分が感じているのだと思う。見えないけど、心で感じているものだと思う。

C でも、心は見えないから分からいよ?

これまでの授業は、教師が用意した発問を投げかけ、子どもたちはそれに答えるという授業でした。かと言って、教師は発問も何もせず、子どもたちに丸投げでは、深い学びは実現しません。

宮崎先生は、中心発問として、「心が美しいとは、どういうことだろう。」をもっておられました。ところが、授業では、子どもたちから出てきた言葉をキャッチし、さり気なく近づいて「みんなの話し合いの中で出てきた『心が美しい』とか『見えない美しいもの』ってどういうことなの?これが分からないな。」と展開しました。子どもたちは、自分たちが考えていたことにふと立ち止まり、たしかにどういうことだろうと自己を見つめながら、さらに考えを深めていました。子どもたちが主観的、対話的に考え、深い学びを実現する「考え、議論する道徳」は、このような授業ではないでしょうか。

畿央大学大学院教授
**島 恒生 先生の
ここに
フォーカス!**



自分も相手も大切にする態度を育てる小さな対話

東京都杉並区立神明中学校 丸山 晶子

教材名 「言葉の向こう」(『中学道徳 あすを生きる1』日本文教出版)

内容項目 B「相互理解、寛容」

主題名 お互いの立場の理解

ねらい 姿が見えても見えなくても、相手の立場を尊重しようとする寛容な態度を育てる。

教材あらすじ インターネットのファンサイトで、自分の応援するサッカー選手に対する悪口を見た主人公の「私」。反論する言葉がエスカレートする「私」に、「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という忠告が書き込まれ、自分の行動はコミュニケーションではなく、ただの押しつけだったと「私」が気づくお話である。

1 はじめに

スマートフォンやタブレット端末でインターネット環境に慣れている生徒たち。LINEで友人と、またオンラインゲームで見ず知らずの人と間接的にやり取りするのも珍しいことではない。そういう「姿が見えない」相手とのやりとりは、時に深刻なトラブルにつながることもある。相手が目の前にいたとしても、自分とはまったく価値観の異なる相手の立場を理解することは難しく、また理解したとしても自分の意見に固執してしまうこともある。

「特別の教科 道徳」の目標は、「……よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、(中略)物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考え方を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことにある。「広い視野」とは、多くの考えに触れることで次第に養われるものである。そして、中学生にとって身近な他者は級友である。「たくさんの意見に触れ」、「自分の意見を受け入れてもらえる安心感を感じ」、適切な自己開示の方法を体得していくためには「小さな対話」を級友と繰り返し行なうことが結局は近道に思われる。道徳の授業では、話し合いを積み重ねることで、言葉

の選び方や幅広い意見を聞く下地を作ることを意識している。

2 教材とねらいとする価値について

本教材は、インターネットのファンサイトという、「自分と価値観の同じ相手と交流を楽しむ」場所で起きた、「異なる価値観に不意を突かれる」という思いがけない「事件」をきっかけにして、主人公の「私」が相手とのコミュニケーションについて再考することになる話である。分かってはいても、実践することが難しい、「自分と異なる価値観」をもつ相手と適切な意見の交流をしようとする「寛容な態度」を育てるこことを目的としている。

3 本時の指導方法について

(1) 授業づくりについて

道徳教材では、主人公の変容が物語の中に設定されている。そして中心発問では、その変容を促すきっかけとなる出来を取り上げ、ねらいとする道徳的価値に迫る。そこで、本教材では、中心発問として「いちばん大事なことを忘れていた」という「私」の言葉に着目し、「何を忘れていたのか」を学級全体の話し合いで取り上げることに決めた。その後、中心発問に至る発問の流れを決めていった。

まずは教材に興味をもたせるために、教科書を閉じたまま、「インターネットサイトへの書き込みは、匿名がいいか、実名がいいか、どちらだろう。」という簡単な質問を行い、隣や後ろの席の人と自分の意見やその理由について話す時間をもった後、全体で交流する。その後、主人公の気持ちに迫る基本発問として、「必死で反論する『私』の言葉が次第にエスカレートするのはなぜか。」「『中傷する人たちと同じレベルで争わないで。』という書き込みを見て『私』はどう思ったか。」の2つを設定し、これもまた近くの級友と話してから全体で交流する。ここまでワークシートなどへの記入は行わず、電子黒板で発問と場面絵を示す程度にし、

周囲と気楽に意見交流をする時間を大切にする。「道徳ノート」にこれまでの話し合いで気づいたことや、級友の意見をメモしながらの交流も可とする。

中心発問の場面になったら、黒板に中心発問を書き、改めて「道徳ノート」を開かせる。そして、まず自分の意見を書き、再び近くの席の級友と話し合う時間もつ。次に全体での話し合いにつなげる。展開後段では、発問「お互いの立場を理解し尊重するとは、どういうことだろう。」についての意見を全員に発表される。どちらも、自分が気になった級友の発言をメモさせるようにしている。

(2) 授業で行う発問では毎回小さな話し合いをもつ

授業の流れとして、導入では「匿名性」について、展開では「寛容な態度」について考えさせることになる。その全ての場面で、まず自分で考える時間もつた後、隣や前後の席の級友と話し合う時間をもつ。自分の意見を発言するとともに、相手と話したときに自分の意見を受け入れてもらったり、全く違う意見を言われたりする機会を多くもつことで、生徒は自分の考えを深めていく。

(3) 教員は生徒の意見を受容的に受け止める

道徳の授業の場で、唯一、教材を読み込んでおり、冷静な視点をもつのが教員である。話し合いの際、机間巡回をして生徒の意見を受け止めたり、全体の話し合いで発表した勇気を受容したりすることで、生徒が「受け入れてもらえた」という安心感をもち、自分の意見を学級全体の場で発表する勇気をもたせたい。

(4) 展開前半の授業の様子(一部)

生徒A 「必死に反論する『私』の言葉がエスカレートした理由は分かるよ。推しを守ろうと思うもん。」
生徒B 「私もこの間、自分の推しについて嫌なことを言われて、とても傷ついた。でも、目の前の友達には反論できなかったな。さらに傷つくことを言われそうだし、友達だから傷つけたくないし……。」

生徒A 「分かる！ でもネットだったら、知らない人

日本大学教授
渡邊 真魚 先生の
ここに
フォーカス!



情報がデジタル化され、コンピューターやインターネットを介してやり取りされる仮想的な空間では、日常では口にしづらいことも気軽に発信できるようになりました。情報化社会では、誰もが情報の発信者になる一方、その情報の真偽を見極める力も、求められます。

こうした課題に向き合い、一人ひとりに発言の機会を与える「小さな対話」を積み重ねている丸山先生の指導観には、顔の見える相手から対話を始めることで、顔が見えても見えなくても、相手を尊重することには変わらないという、生き方に關わる本質的なメッセージが含まれているようです。登場人物である「私」が学んだこと(本実践では「変容を促すきっかけ」)に着目して中心発問を設定し、理由を探ったり、意味づけしたりと、教師が生徒の自然な思考の流れを把握した学習活動だと思います。

だから、自分が言いたいこと言っちゃう。」

生徒B 「逆に相手の気持ちを考えなくていいみたい」

生徒A 「そうそう！」

教師 「相手が友達だと言いにくいことを、ネットなら言えちゃうんだね。」

生徒A 「そうです！」

教師 「そんなときには、『中傷する人たちと同じレベルで争わないで。』と言わされたら……。」

生徒A・B 「恥ずかしいねー！」

教師 「どうして恥ずかしいの？」

生徒B 「だって、ダメじゃないですか、何があったって悪口言ったら。」

教師 「それを冷静に言われて、本当の自分に戻れるのかな……？」

生徒A 「はい。推しを応援して自分に。」

(5) 展開中段～後半の授業の様子(一部)

教師 「『私』は『いちばん大事なことを忘れていた』と言っているが、どんなことを忘れていたのだろう。」

生徒A 「ファンサイトは、全員が楽しく交流する場なのだということ。たった一つの反対意見(A選手への悪口)しか見えなくなり、結果、その場にいる大勢の人を不快にさせてしまった。」

生徒B 「実際に相手の顔を見て会話をするときも、相手の気持ちを考えようとするけれど、ネット上でもそれは変わらないということ。」

生徒C 「人を傷つける言葉はたとえ、それが正義感から出たものであっても、言ってはいけないということ。」

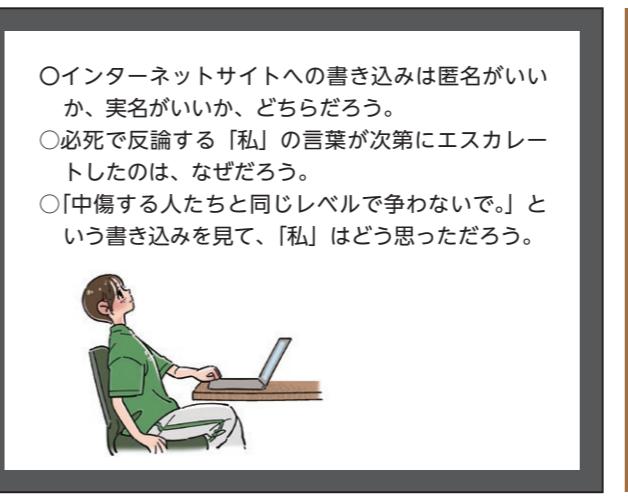
生徒D 「中傷を書いてしまっている人も、自分と同じ人間であること。」

生徒E 「いちファンとして相手を敬うこと。」

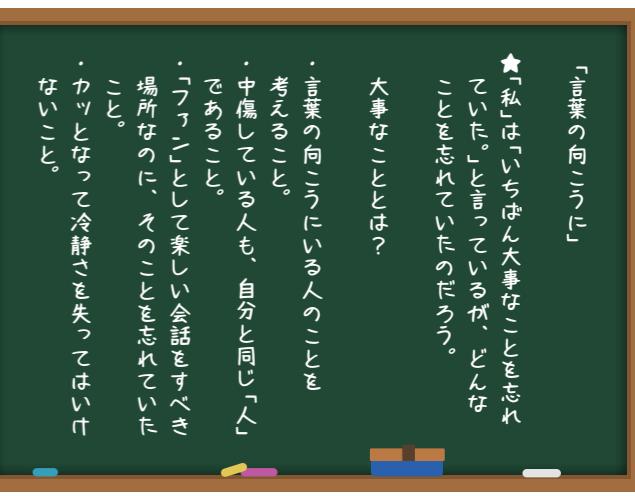
教師 「お互いの立場を尊重するとは、どういうことだろう。」

実践事例

	学習活動	指導上の留意点	
	導入	展開	終末
◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される生徒の反応	<p>1 自分の経験を振り返る。</p> <p>○インターネットサイトへの書き込みは匿名がいいか、実名がいいか、どちらだろう。 ☆匿名だと意見が言いやすい。 ☆実名のほうが自分の意見に責任をもつ。 ☆匿名だと、言動がエスカレートしてしまうことがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のインターネットサイトへの書き込みを想起させ、「匿名性」がもたらす危険性を捉えさせる。 ・近くの席の人と1分間意見交流をさせた後、学級全体での話し合いでの発言を促す。 	
2 教材「言葉の向こうに」を読み、考える。	<p>○必死で反論する「私」の言葉が次第にエスカレートしたのは、なぜだろう。 ☆自分の考えを否定されたから。 ☆A選手を守らないといけないと思ったから。 ○「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て、「私」はどう思つただろう。 ☆自分は正しいことをしているのに、なぜそんな自分が注意されるのか。 ☆相手が悪いのに、なぜ自分が非難されるのか。 ○「私」は「いちば大事なことを忘れていた。」と言っているが、どんなことを忘れていたのだろう。 ☆言葉の向こうにいる人のことを考えること。 ☆中傷している人も、自分と同じ「人」であること。 ☆「ファン」として楽しい会話をすべき場所なのに、そのことを忘れていたこと。 ☆カッとなって冷静さを失ってはいけないこと。 ○お互いの立場を理解し尊重するとは、どういうことだろう。 ☆相手の気持ちを理解しようすること。 ☆お互いを傷つけてはいけないこと。 ☆相手を敬うことが大切。 ☆自分が絶対に正しいと思わないこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問をしたら、その都度近くの席の級友と意見交換をさせることで、自分と異なる意見に数多く触れさせる。また、自分の考えを改めて確認する。 ・「道德ノート」を活用し、話し合いで出た級友の意見をメモしてもよいと伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・中心発問では、まず自分の考えを近くの級友と話し合い、次に「生活班」(5~6人)で話し合った後、最後に学級全体で話し合う。 ・適宜、机間巡回を行い、生徒の意見を受容して聞く。 ・学級全体での話し合いで意見を発表するときも、基本的にまず意見を受け止めるようにする。 ・自分の考えを、全員に発表させる。 	
3 教師の説話を聞く。その後、今日の学習を振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが自分の「正義」をもっている。その「正義」を相手に押しつけようすると、深刻な対立が生まれてしまう。自分の「正義」と相手の「正義」を、「私はこう思うけど、あなたはそう思うんだね。」と互いの価値観を尊重する態度が大切であるという話をする。 ・「道德ノート」に自分の考えを書く。 	



電子黒板



板書例

生徒A 「自分がされて不快に思うことを相手にもしないということが大切。また、いつでも言葉を放つ前に、その言葉で相手が嫌な思いをしないかを考えること。」

生徒B 「その言葉の向こうにいるのは同じ人間だから、それを常に忘れずにいて、言葉選びを焦らずすること。」

生徒C 「お互いを傷つけてはいけない。」

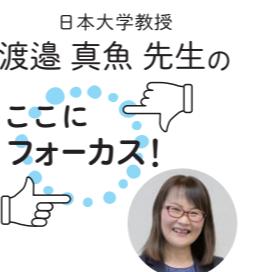
生徒D 「お互いの意見を大切にして冷静に対処すること。」

生徒E 「自分の考えだけをぶつけるのではなくて、他の人の意見も聞き入れたうえで自分の考えを言うことや、何があってもお互い暴言を吐かないようすれば、自然とお互いの立場を尊重し合えるのではないか。」

中心発問への自分なりの考えを学級全体で交流した後、次の基本発問では、級友の言葉を聞いた上で深まった考えを発表することができた。

(5) おわりに

本授業では、生徒たちが次々に自分の考えを表明した。中心発問に対しても、友人の考え方を聞きながら修正し、「寛容」について、それぞれが自分なりの筋道



生徒の実態として「中学生は『正しい』という価値について語ることが本当は好きである。」という丸山先生の言葉に大変共感します。自分も相手も大切にする態度を育てるというビジョンがあるからこそ、「私」の言い分「必死に反論する『私』の言葉が次第にエスカレートしたのは、なぜだろう。」と「私」の気づき「『中傷する人たちと同じレベルで争わないで。』という書き込みを見て、『私』はどう思つただろう。」に着目できたと考えます。誰一人取り残さないための「小さな対話」という学びの環境を整えるからこそ、それぞれが自分なりの道筋で「相互理解、寛容」の具体にたどりつく。道徳的価値の実現の始まりは、「小さな対話」かもしれません。やがて大きなムーブメントを起こすには、「対話」という学び方を学ぶことも大切です。みなさまは、本実践をどのように受け止められましたか。

おさえておきたい!

授業力アップのための教科書・指導書活用術

中学校編

教科書QRコンテンツを有効活用する! —動画を活用して興味・関心を高める工夫を—

岩手県盛岡市立上田中学校教諭 山田 将之



範読時間を事前に把握するには

40号の本連載で多田義男先生から教材の範読についての紹介がありました。この点について補足情報を伝えたいと思います。中学校の道徳教材は文章量が多いと言われます。範読時間が長いと、続く学習活動の時間が圧迫されることがあります。そこで、範読時間があらかじめ把握できれば、時間配分もしやすくなるのではないかでしょうか。『中学道徳 あすを生きる 教師用指導書』の解説編と朱書編のどちらにも、範読時間の目安が示されています。自分で読んで所要時間を確認する手間が省けます。

動画で生徒の興味・関心を高める

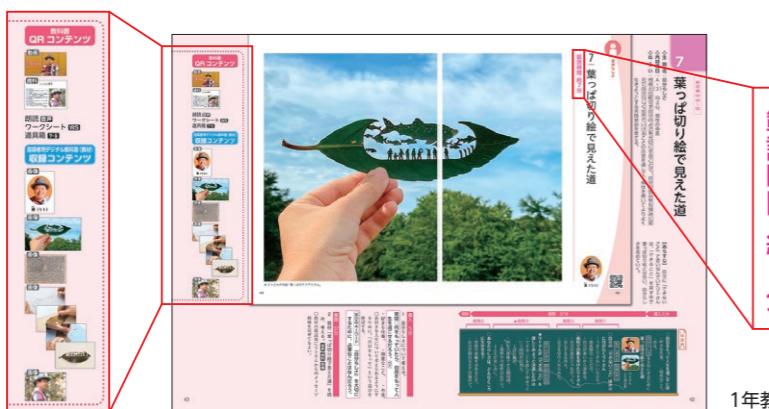
さて、本号では、教科書 QR コンテンツの活用について紹介したいと思います。教科書 QR コンテンツは、全教材に用意され、それらの内容については、教師用指導書の解説編や朱書編に示されています。(指導者用デジタル教科書(教材)収録コンテンツも含む)

特におすすめは、動画です。ショート動画を見慣れている現代の生徒たちにとっては、文字情報で内容がつかみにくくても、動画であれば理解できるということも少なくありません。教師が自分で動画を探すこともできますが、教科書 QR コンテンツは二次元コードを読み取るだけで使用できる点が魅力的です。とりわけ、実在の人物に関する教材では、本人からのメッセージ動画なども収録されており、生徒の興味を引くことができますし、何よりその人物を身近に感じることができます。

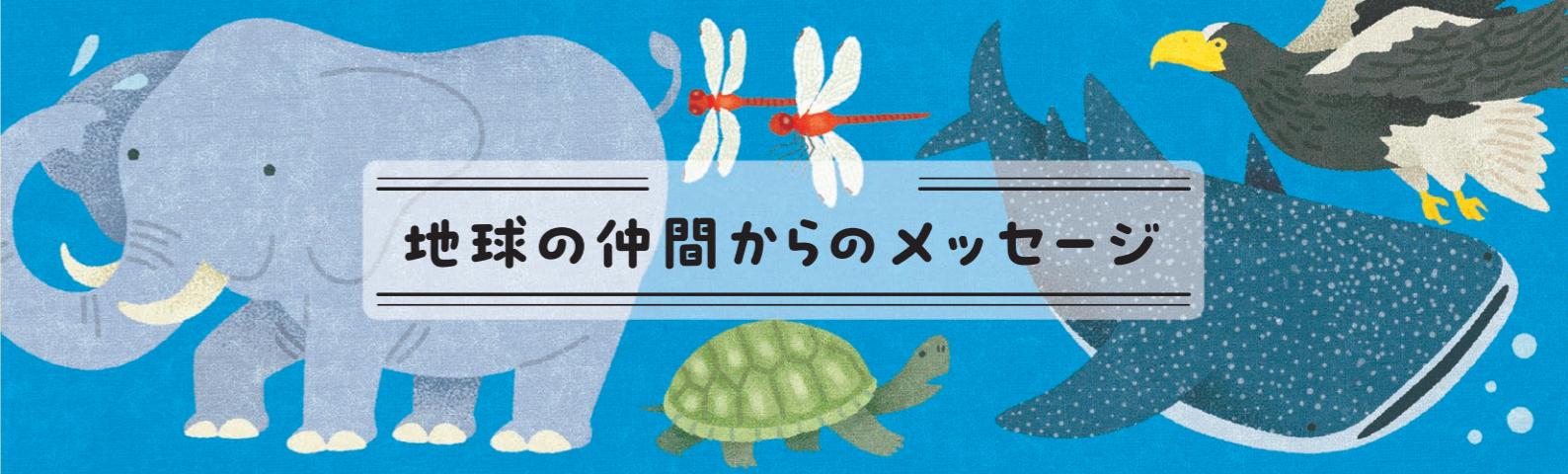
最後に、道徳の授業を行う前段階で生徒と共有したいことがある場合にも、教科書 QR コンテンツは有効です。1年の教材「iPS 細胞で難病を治したい」では、iPS 細胞について知ることで、山中伸弥さんの熱意をより感じることができます。そのために動画「iPS 細胞の作り方とその利用例」も用意されています。

ぜひ、教科書 QR コンテンツを活用し、生徒の興味・関心を高め、豊かな道徳科授業をしていきましょう。

教科書 QR コンテンツと指導者用デジタル教科書(教材)の収録コンテンツが示されています。



1年教師用指導書 朱書編p.42-43



自然の法則 —なぜ、北のクマは大きいのか?—

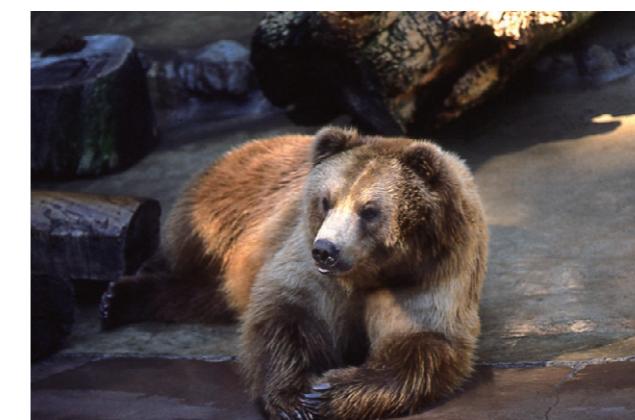
獣医師、第16代天王寺動物園長

長瀬 健二郎

この数年、秋から冬にかけてのクマによる人的被害が深刻化しています。特に昨年は、銃使用に関する制度を変更しても対応せざるを得ない事態に陥りました。以前は、北海道に生息するヒグマに比べると、本州のツキノワグマによる死亡事故は少なかったのですが、近年はそうとも言えなくなっています。これは、やはり報じられているように近年の気候変動による食料の不足やヒトの生活様式の変化が大きな要因となっていると考えられます。

日本のクマによる死亡事故はヒグマによるものが多く、特に1915年に北海道で発生したヒグマが入植者を襲った凄惨な事件が有名です。この事件を題材に吉村昭が書いた小説として『熊嵐(くまらし)』があります。これはヒグマの体重が150~250kgとツキノワグマの80~150kgと比べると格段に大きく、食性も肉食性が強いことに大きな理由があると思われます。

では、なぜ同じクマでありながら、ヒグマはツキノワグマよりも大きいのでしょうか。これにはきちんとした学説があるのです。それはドイツの生物学者、クリスティアン・ベルクマンによって提唱された「ベル



ヒグマ



ツキノワグマ

クマンの法則」です。この法則は「同種もしくは近縁種の恒温動物においては、高緯度に生息する個体ほど体が大きくなる」というものです。寒冷地のほうが食べ物が少なそうなのに、そこに生息する動物の体が大きいというのは矛盾するように感じられるかもしれません。しかし、このほうが合理的なのです。

実際、体の大きい動物のほうが単位体重当たりの表面積が小さくなります。氷を思い浮かべてください。大きな氷のほうが小さな氷よりも溶けにくいですね。その理由は、例えば一辺が10cmの立方体の氷の場合、重さは $10 \times 10 \times 10 = 1000\text{cm}^3$ で約900g、表面積は $10 \times 10 \times 6 = 600\text{cm}^2$ です。1g当たりの表面積は約0.6cm²になります。一方、一辺が1cmの立方体の氷の場合、重さは約0.9g、表面積は6cm²で、1g当たりの表面積は約6cm²と10倍になります。つまり外気に触れる面積が広いため、小さな氷のほうが大きな氷よりも早く溶けてしまうのです。動物も同じで、体が大きいほうが寒冷地では体温を奪われにくく、暮らしやすくなるのです。これが寒冷地に生息する動物のほうが、体が大きくなる理由です。

冬眠の時期になると、ヒトがクマと遭遇する機会は減りますが、根本的な対策を講じない限り、状況は改善しないでしょう。一刻も早くこの問題が収束することを願ってやみません。

開催の
お知らせ

第5回 日文道徳セミナー in 東北

考え、議論する道徳の授業展開

～道徳科における深い学びとは～

日 時 2026年2月21日(土) 13:00~15:30
会 場 岩手教育会館カンファレンスルーム200
〒020-0022 岩手県盛岡市大通1-1-16
参 加 費 500円(税込)
進行・総括 渡邊 真魚先生(日本大学教授)



福島県公立中学校教諭、福島県教育庁、福島県公立小学校校長などを経て現職。
現在、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会道徳ワーキンググループ委員を務める。日本文教出版『小学道徳 生きる力』『中学道徳 あすを生きる』編集委員。

お申し込みは、日文webサイト
「セミナー案内」ページから!!

※締切：2026年2月20日(金)17時まで



プログラム

対面・オンラインの
ハイブリッド開催

発表①小学校授業実践

末永 萌香先生(宮城県公立小学校 教諭)
1年「かばちやのつる」
5年「流行おくれ」

発表②中学校授業実践

山田 将之先生(岩手県盛岡市立上田中学校 教諭)
2年「夜のくだもの屋」

発表③校長先生による授業実践

星 英典先生(福島県南会津町立田島中学校 校長)
1年「震災を乗り越えて一復活した郷土芸能ー」
3年「海のごみは『まちなか』で生まれる」

トークセッションおよび総括

// 日文公式 Instagram を開設しました! //

NEW!

日文公式Instagram



日文公式YouTubeチャンネル



日文公式X



日文公式Facebook



最新話(第5回)
絶賛公開中!



どうとくのひろば

・読者アンケートはこちらから!



どうとくのひろば No. 42

日文教育資料【道徳】
令和8年(2026年)1月30日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33778

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690